

さあ！生まれたよ

～孵化(ふか)～



カイコの卵はふつう、冬を越して、春になると孵化します。カイコが卵から孵化するのは、朝明るくなるころです。孵化(ふか)したばかりのカイコは、色が黒く、毛が生えているので毛蚕(けご)または蠶蚕(ぎさん)といいます。カラダの大きさは3mmほどの小さなカイコです。



カイコは桑の葉を食べます。カイコに桑を与えることを給桑(きゅうそう)といいます。孵化したばかりの毛蚕は、安全に卵の殻から取り離し、毛蚕の量から飼育に必要な広さを決めてから、初めての給桑をします。このことを掃立(はきたて)といいます。

おそうじをしよう！

～除沙(じよさ)～



モリモリ桑を食べるカイコも、桑を食べ残したり、フンをしたりします。カイコはとても病気に弱い生き物なので、清潔な環境で育ててあげなければなりません。カイコの食べ残した桑やフンを取り除く作業を除沙(じよさ)、または蚕尻とり(こじりとり)といいます。この時、網を使ってカイコの上に網を置き、網の上に桑をのせると、カイコの上へと上がる性質から、カイコは網目をくぐって上へ上がって桑を食べ始めます。網の下には食べ残しの桑とフンとが残るので網を上げると簡単に蚕尻とりができます。



モリモリ桑を食べていたカイコも、数日経つと、桑を食べるのをやめます。すると、桑の葉などに糸を少し吐き、その上にしっかりと腹脚(ふくきやく)の爪をかけてカラダを支え、頭を上げて動かなくなります。このカイコが眠っているような時期を眠(みん)といいます。カイコは眠の時期に、新しい外皮を内側に準備します。

そして、頭部の殻が取れ、カラダの頭部と胸部の間の古い外皮が破れ、前方に進みながら古い皮を脱ぎ捨てます。これを脱皮といいます。脱皮をして、新しいだぶだぶの皮をまとったカイコは、またひとまわり大きくなります。

この眠と脱皮を4回くり返して、カイコは成長します。

さあ！まゆづくりだ



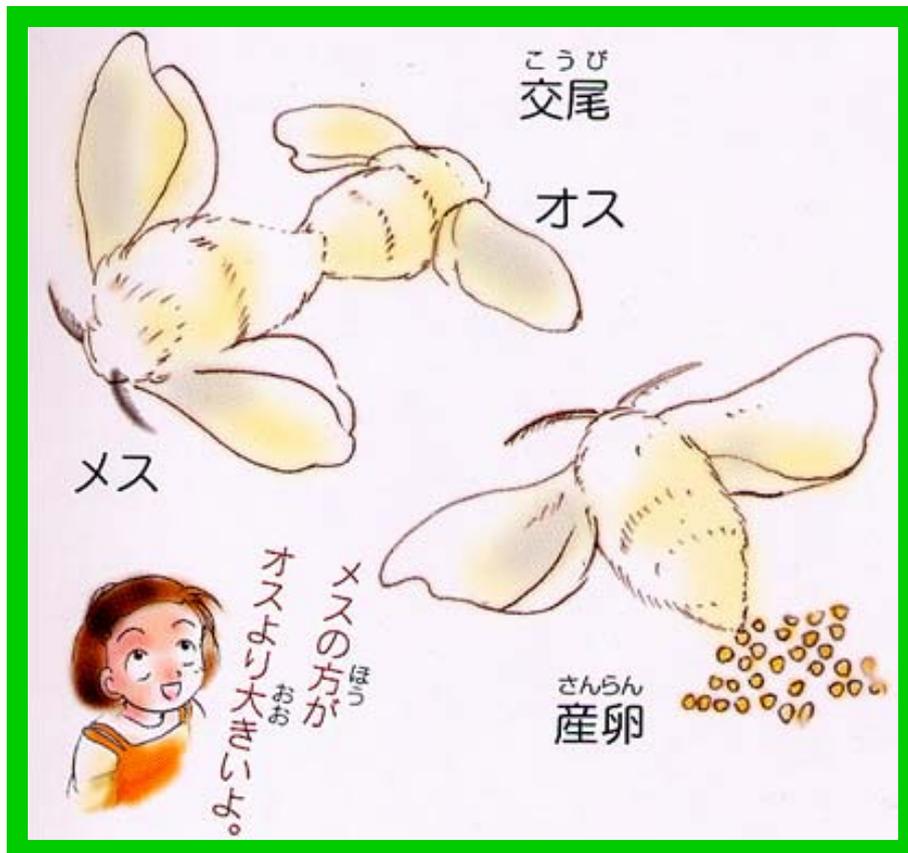
いよいよまゆづくりです。まずカイコは、絹糸腺(けんしせん)から出された液状絹(えきじょうけん)という糸のもとを、吐糸口(としこう)から外に出し、蔴(まぶし)などにくっつけます。液状絹は一瞬で固まり、糸になります。頭と胸を8の字のように動かすことによって、吐糸口から糸を引き出し、少しずつ自分の足場を固めながらまゆをつくっていきます。カイコがまゆをつくることを営繭(えいけん)といいます。

## 蛹から蛾へ



2, 3日休むことなく糸を吐き続けたカイコは、まゆの中で糸を吐き終わります。しばらく静かにすごしていると、糸を吐き終えたカイコのカラダはうすい褐色に変わり、脱皮をして蛹(さなぎ)になります。

まゆを作り始めてから12日くらいで蛹は蛾となり、早朝まゆから出てきます。蛾はまゆ層を溶かして穴をあけかき分けながら、外に出ます(羽化)。穴があいたり、汚れたまゆからは良い生糸が繰れないので、まゆを乾燥し、蛹を殺して、長い期間保存できるようにしています。



羽化すると蛾は、すぐにメスとオスが交尾します。

交尾を終えたメスは一晩で約500個の卵を産みます(産卵)。蛾は何も食べず水も飲まずに一生涯を終えます。

交尾と産卵は、命を残すという最後の大切な仕事です。

# カイコの一生サイクル図

